

平成 31 年度 1 学期始業式 校長講話

2019. 04. 03

3 学期終業式の翌日、引継ぎの仕事で犀峽キャンパスに行って来ました。正面の庭園には、艶やかなモクレンのアイボリーがかかった花びらが揺れ、清楚なコブシの純白の美しさが陽光を浴びていました。いずれも、見事な咲き具合で春爛漫、目を奪われ心洗われました。明日は、新入生が入学。ここにいる上級生が中心になって篠ノ井高校を創って行く。君たちの時代です。

さて、日米 28 年で通算 4367 安打という記録を積み上げた、マリナーズのイチロー選手がバットを置くことになりました。平成の時代を通して、彼がスポーツの世界に与えてきた影響は大きく、持論である「成果より成長を見つめる」ことがデフォルトになって随分と経ちました。成果つまり結果はそれが出れば終わり、しかし成長を目標にするとずっと継続して向上する。

正にその通り。

しかし、昭和の時代に、「頂点を目指して勝利を積み重ねる」という思いが染みつく学生生活を送った私には、どこかしっくり来ない。イチロー選手に反論する気は全くないのですが、少なくとも高校生においては、あえて成果と成長を分けて考えなくてもいいと思うのです。努力の成果が出たら次に新たな目標を定め、それに向かって努力していく。その繰り返しの中で、少しずつ成長を実感する。スポーツに限らず、学ぶとはそういうことではないだろうか。

自分の言葉で目標、そして志を語って欲しい。

昨年の 1 学期始業式と入学式で、皆さんに求められているのは「前例のない未来を創る」力であること。実際の大学入試においても、従来の知識が多ければ評価される試験から、コミュニケーション力、プレゼンテーション能力などを使い、自分の意思を形にして行く学力を積極的に評価する試験に変わって行くこと。その中で、先ず英語力を高め、コミュニケーション能力を磨くことを期待していると伝えました。

あれから一年。新 3 年生の 4 人に一人が英語検定 2 級に合格、2 年生も同様の人数が準 2 級に合格しました。いずれも、素晴らしい結果だと思います。合格というよく分かる成果を手にした喜びを一步先へと進め、新たなステージに向かって下さい。

あなたの夢、そして希望を形にしたい。